A decorative border with floral and leaf motifs in the corners, surrounding the central text.

令和4年度

事業報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

社会福祉法人 慈童会

令和4年度 事業報告書

目次

法人本部	1
管理部	
事務所	
地域貢献活動	
研修会	
安全衛生管理	
委員会活動	
第1種社会福祉事業	19
特別養護老人ホーム	
第2種社会福祉事業	25
短期老人入所事業	25
くすのき園 短期入所生活介護事業所	
くすのき園 介護予防短期入所生活介護事業所	
老人デイサービス事業	27
くすのき園 通所介護事業所	
くすのき園 介護予防日常生活支援総合事業通所介護事業所	
居宅介護事業	29
くすのき園 訪問介護事業所	
くすのき園 介護予防日常生活支援総合事業訪問介護事業所	
居宅介護事業所 くすのき園	
グループホーム	32
共用型通所介護事業所	
保育所	35
くすのき保育園	
公益事業	37
くすのき園 居宅介護支援事業所	
鈴鹿第4地域支援センター・鈴鹿第4介護予防支援事業所	
鈴鹿北部認知症総合支援事業所	

社会福祉法人 慈童会

1.法人全般

来年の介護報酬は、医療・障害とトリプル改定であり、2025年を目前にして医療費・介護費が一気に膨らむ。現役人口が減り続け、深刻な労働力不足の中で、社会福祉法人は、今が正念場である。地域共生社会の実現に向けて、介護保険制度改正は、「地域包括ケアシステムの深化と推進」「介護現場の生産性向上」の2つの柱が掲げられた。

令和4年度における本法人のビジョンは、「地域包括ケアの中心的役割を担い、公益的・公共的な事業を展開し、もって地域社会から信頼が得られる事業運営を行う」であり、「上質なサービスの提供」「経営基盤の強化」「地域とのかかわり」「職員満足度向上」を重点において取り組んだ。令和4年6月に前理事長に変わり後任の理事長により新しい体制となった。利用者・地域に選ばれた社会福祉法人として、時代に即応した福祉サービスを実施すべく、中長期計画に基づいた事業の展開や経営改革に取り組んでいきたい。

2. 重点的取り組み

(1) 上質なサービスの提供

- ・新型コロナウイルス感染の第7波・8波において、全事業所の職員が次々と感染、利用者も次々と拡散しグループホームと特養ではクラスターを発生させることとなった。業務継続に向けた対応策に全力を挙げて取り組み、情報共有と協力体制を取ることで利用者の日常生活の弊害の除去に努めた。BCPや感染症発生時のシミュレーションの見直しを継続して行い、感染症や災害への対応力を強化してことにより、地域から信頼される事業運営を図り、人生の最期まで、自分らしく暮らせるようサービス提供体制を構築したい。
- ・「利用者の人権を尊重する」という法人の方針と相容れない虐待の芽を摘み、身体的拘束等を容認せず、自立支援を念頭に事業を展開した。虐待防止法等の適切な理解を促し、社会福祉施設の職員としてルールの遵守の重要性を普及させ、コンプライアンスの徹底に努めた。
- ・利用者満足度アンケートは、2事業所が実施し高評価を得た。
- ・ICTの効果的活用や介護ロボットの導入により、業務効率化と利用者サービス向上に繋がった。

(2) 経営基盤の強化

- ・経営意識の醸成を図るために、BSCを用いた活動報告会（前期・後期）及び、毎月の実績検討会を通じて、事業所ごとの事業進捗状況の確認、稼働率やサービス収益等の経営状態を点検することにより、経営状況の把握と情報共有を行い、財務基盤の強化に努めた。
- ・国からの介護職員改善加算・特定処遇改善加算・新たなベースアップ加算を活用し、給与改善・労働環境改善に努めた。結果、前年比較で人件費の増加や（障がい者）居宅介護サービス・短期入所サービス事業での減益となった。法人全体では、引き続いて適正な財政運営を行うことができた。
- ・高齢化する職員の退職と相まって介護人材の確保が困難な状況の中、介護福祉士養成機関の留学生を対象として、計画的に外国人介護人材の登用を進めている。令和4年4月は2名が就職、4月入学のネパール人学生3名と奨学金契約を行った。

(3) 地域とのかかわり

・地域共生社会の拠点として、地域包括支援センターの継続受託、認知症総合支援事業（認知症初期集中支援チーム）、共用型認知症対応型通所介護事業の開設、C型通所介護・介護予防教室の開催等、社会福祉法人として地域ニーズに応える体制整備を行った。

・特養・グループホームでは、感染予防の観点から、面会制限や家族会行事、ボランティアの受入れや地域との交流事業をすべて中止しているが、状況を見ながら再開していきたい。

(4) 職員満足度向上

・ワークライフバランスに配慮した取り組みでは、有給休暇取得率は全体で58%、超過勤務も事業所ごとの格差が大きかったが、産休・育休・時短の該当者は全員取得できた。

・人材育成では、研修計画を策定し、一人一人に合った研修に参加させ、本人のキャリア形成のため、資格取得の奨励、研修希望を取り入れて実効性のある研修内容に努めた。また、人事考課研修において日本経営コンサルタントに次世代リーダー層の育成についてのアドバイスを受けた。

（*具体的内容は、別紙各事業所報告を参照）

3. 会議

(1) 理事会

- | | |
|------------------------|------------|
| ・令和3年度 事業報告及び決算の決議 | 令和4年 6月 7日 |
| ・令和4年度 中間状況報告及び補正予算の決議 | 令和4年11月17日 |
| ・令和5年度 事業計画及び予算の決議 | 令和5年 3月20日 |

(2) (定時) 評議員会

- | | |
|------------------------|------------|
| ・令和3年度 事業報告及び決算の決議 | 令和4年 6月22日 |
| ・令和4年度 中間状況報告及び補正予算の決議 | 令和4年11月29日 |
| ・令和5年度 事業計画及び予算の決議 | 令和5年 3月29日 |

(3) 臨時評議員会

なし

4. 監査

- | | |
|-------------------------------|------------|
| (1) 定例監査 財産及び事業の執行状況及び決算監査 | 令和4年 5月29日 |
| (2) 内部経理監査 全事業所収支状況 試算表報告(3日) | 5月・8月・11月 |

5. 表彰

(1) 永年勤続表彰 令和5年2月18日

5年勤続 7人(老人4 保育3)	10年勤続 6人(老人6)
15年勤続 1人(老人1)	20年勤続 2人(老人2)
25年勤続 0人	30年勤続 1人(老人1)

6. 職員数

- | |
|-----------------------|
| (1) 採用数 23名(老人18・保育5) |
| (2) 離職数 21名(老人18・保育3) |

令和4年度 社会福祉法人 慈童会 理事会

第 1 回 理事会

令和3年度事業報告及び収支決算書の承認

日時 令和 4 年 6 月 7 日 (火曜日) 午前 10時00分～
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室
出席者 6名 欠員0名 戸田・中村監事 2名
議長 北野理事
署名人 小野寺理事長 戸田・中村 監事
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺保育園園長・加藤事務長・古川在宅統括

議 案

(1) 決議事項

- 第 1号議案 令和3年度 事業報告の承認について(案)
- 第 2号議案 令和3年度 資金収支第2次補正予算について(案)
- 第 3号議案 令和3年度 資金収支決算書の承認について(案)
- 第 4号議案 くすのき園居宅介護支援事業所運営規程の一部変更について (案)
- 第 5号議案 鈴鹿第4介護予防支援事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第 6号議案 グループホーム くすのき園管理者の変更について (案)
- 第 7号議案 令和4年度鈴鹿亀山地区広域連合鈴鹿第4地域包括支援センター設置運営業務委託契約書の締結について (案)
- 第 8号議案 令和4年度 第1回 定時評議員会の開催について (案)
- 第 9号議案 社会福祉法人慈童会 後任理事長の選定について (案)
- 第10号議案 社会福祉法人慈童会 後任理事選任候補者の推薦について(案)
- 第11号議案 鈴鹿市通所型サービスC事業に関する業務契約書の締結について (案)

(2) 報告事項

- 第 1号報告 社会福祉法人 慈童会 定款の一部変更について
- 第 2号報告 鈴鹿市介護予防普及啓発事業に関する業務(出前教室・Web教室)に関する業務委託契約書の締結について
- 第 3号報告 鈴鹿市認知症総合支援事業に関する業務(鈴鹿市認知症初期集中支援事業及び鈴鹿市認知症地域支援推進事業に関する業務) 委託契約の締結について
- 第 4号報告 第4回 理事会書面決議の結果について
- 第 5号報告 第3回 評議員会書面決議の結果について

その他

第 2 回 理事会

中間報告

日時 令和 4 年11 月17日 (木曜日) 午前 9時30分～
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室
出席者 6名 欠員 0名 戸田・中村監事 2名
議長 北野理事長
署名人 北野理事長 戸田・中村 監事
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長・加藤事務長・古川在宅統括

議 案

(1) 決議事項

- 第 1号議案 その他の積立金の取崩しについて (案)
- 第 2号議案 令和4年度 資金収支第1次補正予算について(案)
- 第 3号議案 令和4年度 半期収支決算報告について(案)
- 第 4号議案 認知症対応型通所介護事業所くすのき園(仮称)の運営開始について (案)
- 第 5号議案 認知症対応型通所介護事業所くすのき園 運営規程の制定について (案)

- 第 6号議案 社会福祉法人 慈童会 経理規程の一部変更について (案)
- 第 7号議案 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第 8号議案 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第 9号議案 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について (案)
- 第10号議案 くすのき園通所介護介護事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第11号議案 くすのき園介護予防通所介護介護事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第12号議案 令和4年度 第2回 評議員会の開催について(案)
 - ・ 評議員会の日時・場所・議題、議案の概要 決議

(2) 報告事項

- 第 1号報告 令和4年度 中間事業報告について

その他

第 3 回 理事会

- 日 時 令和 5 年 3月20日 (月曜日) 午前 9時30分～ 時 分
- 場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室
- 出席者 6名 欠員 0名 戸田・中村監事 2名
- 議 長 北野理事長
- 署名人 北野理事長 戸田・中村 監事
- 議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長・加藤事務長・古川在宅統括

(1) 決議事項

- 第 1号議案 積立金の取崩しについて (案)
- 第 2号議案 令和4年度 資金収支第2次補正予算について (案)
- 第 3号議案 令和5年度 事業計画の制定について (案)
- 第 4号議案 令和5年度 資金収支予算の制定について (案)
- 第 5号議案 社会福祉法人慈童会 給与規定の一部変更について (案)
- 第 6号議案 社会福祉法人慈童会 経理規定の一部変更について (案)
- 第 7号議案 社会福祉法人慈童会 育児介護休業等に関する規則の一部変更について (案)
- 第 8号議案 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第 9号議案 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第10号議案 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について (案)
- 第11号議案 くすのき園居宅介護支援事業所 運営規程の一部変更について (案)
- 第12号議案 鈴鹿市介護予防普及啓発事業に関する業務(出前教室・WEB教室)に関するプロポーザル参加表明について (案)
- 第13号議案 令和5年度 給食業務委託契約書の締結について (案)
- 第14号議案 令和4年度 第3回 評議員会の開催について(案)

(2) 報告事項

- 第 1号報告 新型コロナウイルス感染症 施設内感染について
- 第 2号報告 令和4年度 社会福祉法人指導監査の実施について
- 第 3号報告 令和4年度 グループホームくすのき園 第三者評価受審結果について
- 第 4号報告 共用型(介護予防)認知症通所介護事業サービスの開始について

その他

- 社会福祉法人慈童会 理事及び監事候補者の推薦について (案)
- 社会福祉法人慈童会 評議員選任解任委員会委員の選任について (案)
- 日本経営コンサル業務委託契約について

令和4年度 社会福祉法人 慈童会 定時評議員会

第 1 回 定時評議員会 令和3年度事業報告及び収支決算書の承認

日時 令和 4 年 6 月 2 2 日 (水曜日) 午前 9 時 3 0 分～
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室
出席者 7 名 欠員 1 名 (鈴木 評議員) 監事 1 名 戸田 監事
議長 豊田評議員
署名人 北野理事長 ・ 伊藤評議員 ・ 今村評議員
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長 ・ 鈴木理事 ・ 小野寺保育園 園長
古川在宅統括

議 案

(1) 決議事項

第 1 号議案 令和 3 年度 事業報告の承認について(案)
第 2 号議案 令和 3 年度 資金収支第 2 次補正予算について(案)
第 3 号議案 令和 3 年度 資金収支決算書の承認について(案)
第 4 号議案 社会福祉法人慈童会 後任理事推薦候補者の選任について(案)

(2) 報告事項

第 1 号報告 社会福祉法人 慈童会 定款の一部変更について
第 2 号報告 鈴鹿市介護予防普及啓発事業に関する業務(出前教室・Web教室) に関する
業務委託契約書の締結について
第 3 号報告 鈴鹿市認知症総合支援事業に関する業務 (鈴鹿市認知症初期集中支援事業及び
鈴鹿市認知症地域支援推進事業に関する業務) 委託契約の締結について
第 4 号報告 第 4 回 理事会書面決議の結果について
第 5 号報告 第 3 回 評議員会書面決議の結果について
第 6 号報告 くすのき園居宅介護支援事業所運営規程の一部変更について
第 7 号報告 鈴鹿第 4 介護予防支援事業所 運営規程の一部変更について
第 8 号報告 グループホーム くすのき園管理者の変更について
第 9 号報告 令和 4 年度鈴鹿亀山地区広域連合鈴鹿第 4 地域包括支援センター設置運営
業務委託契約書の締結について
第 10 号報告 社会福祉法人慈童会 後任理事長の選定について
第 11 号報告 鈴鹿市通所型サービス C 事業に関する業務契約書の締結について

その他

第 2 回 評議員会 中間報告

日時 令和 4 年 1 1 月 2 9 日 (火曜日) 午前 9 時 3 0 分～
場所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室
出席者 7 名 欠員 0 名 監事 1 名 戸田 監事
議長 豊田評議員
署名人 北野理事長 ・ 中川評議員 ・ 田中評議員
議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長 ・ 鈴木理事 ・ 小野寺保育園 園長
古川在宅統括

議 案

(1) 決議事項

第 1 号議案 その他の積立金の取崩しについて (案)
第 2 号議案 令和 4 年度 資金収支第 1 次補正予算について(案)
第 3 号議案 令和 4 年度 半期収支決算報告について(案)

- 第 4号議案 認知症対応型通所介護事業所くすのき園（仮称）の運営開始について（案）
 第 5号議案 社会福祉法人 慈童会 経理規程の一部変更について（案）
 (2) 報告事項
 第 1号報告 令和4年度 中間事業報告について
 第 2号報告 認知症対応型通所介護事業所くすのき園 運営規程の制定について
 第 3号報告 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
 第 4号報告 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
 第 5号報告 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について
 第 6号報告 くすのき園通所介護介護事業所 運営規程の一部変更について
 第 7号報告 くすのき園介護予防通所介護介護事業所 運営規程の一部変更について
 その他

第 3 回 評議員会

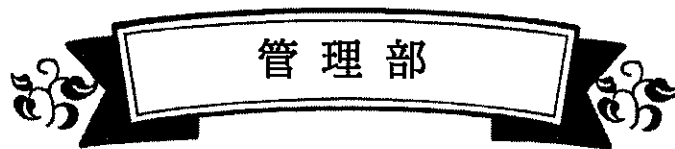
- 日 時 令和 5 年 3月29日（火曜日） 午前 9時30分～ 時 分
 場 所 特別養護老人ホーム くすのき園 会議室
 出席者 7名 欠員 0 名 監事 1名 中村 監事
 議 長 豊田評議員
 署名人 北野理事長 ・ 中川評議員 ・ 今村評議員
 議事録作成者 加藤事務長 事務局 小野寺事務局長 ・ 鈴木理事 ・ 小野寺保育園 園長
 古川在宅統括

(1) 決議事項

- 第 1号議案 積立金の取崩しについて（案）
 第 2号議案 令和4年度 資金収支第2次補正予算について（案）
 第 3号議案 令和5年度 事業計画の制定について（案）
 第 4号議案 令和5年度 資金収支予算の制定について（案）
 第 5号議案 社会福祉法人慈童会 給与規定の一部変更について（案）
 第 6号議案 社会福祉法人慈童会 経理規定の一部変更について（案）
 第 7号議案 社会福祉法人慈童会 育児介護休業等に関する規則の一部変更について（案）

(2) 報告事項

- 第 1号報告 くすのき園訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
 第 2号報告 くすのき園介護予防・日常生活支援総合事業訪問介護事業所 運営規程の一部変更について
 第 3号報告 居宅介護事業所くすのき園 運営規程の一部変更について
 第 4号報告 くすのき園居宅介護支援事業所 運営規程の一部変更について
 第 5号報告 鈴鹿市介護予防普及啓発事業に関する業務(出前教室・WEB教室)に関する
 プロポーザル参加表明について
 第 6号報告 令和5年度 給食業務委託契約書の締結について
 第 7号報告 新型コロナウイルス感染症 施設内感染について
 第 8号報告 令和4年度 社会福祉法人指導監査の実施について
 第 9号報告 令和4年度 グループホームくすのき園 第三者評価受審結果について
 第10号報告 共用型(介護予防) 認知症通所介護事業サービスの開始について
 その他 社会福祉法人慈童会 理事及び監事候補者の推薦について（案）
 社会福祉法人慈童会 評議員選任解任委員会委員の選任について（案）
 日本経営コンサル業務委託契約について



年度目標 社会福祉法人慈童会に関わる全ての人の幸福度追求

1. 上質なサービスの提供

(1) 法人理念と私たちの誓い浸透

理念を実現させるに、理念の解釈をテーマに茶話会を開催した。特別養護老人ホーム所属の職員中心ではあったが、個々の考えを聞き取り、理念と一致しているかの確認、及び日々の行動に活かされるよう、方向性とビジョンの再周知を図った。

(2) 利用者本位の良質なサービス提供

安全で安心、適切なアセスメントに基づく個別ケアの実施を推進するため、管理職間での情報共有を図り、また日本経営株式会社コンサルによる助言を頂きつつ、事業運営を行った。

(3) リスクマネジメント

* 苦情受付

苦情受付担当者、苦情解決責任者、第三者委員を選任し、担当ポスターを掲示すると共に苦情受付ボックスを玄関前に設置している。苦情受付ボックスへの投書はなかった。未解決なし。

年間苦情件数 10 件（前年度プラス 8 件）

うち 保険者等への相談 2 件、うち、第三者委員への相談 0 件。

* 事故報告

事故の発生後は報告書を提出して情報の共有を図っている。事故対策委員会を設置し、事故予防対策を話し合う機会を持つようにし、再発防止に努めている

年間事故発生件数 161 件（前年プラス 21 件）

うち保険者等への報告 9 件、うち施設の損害補償保険請求件 7 件（前年プラス 2 件）

2. 経営基盤の強化

(1) 新規事業「共用型デイサービスグループホームくすのき園」の開設

共用型認知症対応型通所介護（介護予防含）を鈴鹿亀山地区広域連合の指定を受け令和 5 年 2 月 1 日付けで開設した。社会資源として地域の拠点を増加させることで地域福祉共生に寄与した。

(2) 経営企画会議（管理部会議）全 47 回。毎週月曜日 11 時から開催。

利用者、その家族、地域住民及び職員の役に立つ事業の存続と発展のために、業績把握、事業計画及び事業活動について検討する会議を開催した。

出席者：理事長 施設長 在宅統括責任者 事務長 センター長

(3) 幹部会議 全 12 回。毎月第 2 金曜日 16 時から開催。

各事業所の運営や収支状況の現状報告、情報及び問題点を共有することで、早期課題解決と改善策を立て円滑な事業運営を図る目的で会議を開催した。報告事項が主になってきており、課題解決の場としての強化と充実化が課題。

出席者：施設長 在宅統括責任者 事務長 センター長 他各事業所代表者

(4) 実績検討会議 全 11 回。

接遇・サービスの質向上策、収益最大策、経費最小策、時間最短策の視点で目標と実行、振り返りを行った。職員の理解を深めるための予算実績管理表を作成し前年度比較や執行状況を報告している。事業所間で収支差額の格差を狭めていくことが課題としてある。

(5) 株式会社日本経営によるコンサルティング

中長期計画の進捗発表会 年 2 回 (8/19・3/17) 経営層への進捗報告と意見交換 年 12 回
職員幸福度アッププロジェクト年 1 2 回 特別養護老人ホーム個別アプローチ 年 23 回

(6)ガバナンスの強化を目的とする内部統制管理

組織図により権限を明確にした。権限と責任を明示することにより法令遵守及び資産の保全を図り、労働環境の悪化を予防している。

(7)人材の確保、育成、定着

・人事考課制度に則り、職階層に応じた教育を体系的に行っている。12月に職務チェックを時給者及び経験が浅い職員を主に実施、行動評価は正規職員が全員に実施した。評価結果後は振り返りシートを活用したフィードバックにより次期に繋げ、個人目標の設定を立て育成に役立てている。

前期面談 1 回 後期面談 1 回

・将来の福祉・人材確保対策として、各種学校に通う介護福祉士を目指す学生に奨学金を支給した。4名の学生に年間 276 万円。令和 5 年度も継続する。

・鈴鹿市企業説明会参加 3/25

・ユマニテク医療福祉大学校施設連絡会議出席「奨学金対象学生」6/16・9/11

(8)業務の効率化

法人の目的を達成するために、効率的・確信的に運営できるようよう人材、財務、修繕を主としてマネジメントし、法人全体の付加価値額は 64183 万円に至るが、一方で人件費率は 70.5%で労働分配率は 93.9%と前年比プラス 0.5%で高水準を維持している。

3. 地域との関わり

(1)地域への広報活動

新型コロナウイルス感染症予防において、地域の方々への事業発表会、ボランティアの慰問受け入れ、認知症カフェの開催はすべて中止した。感染対策が緩和されつつある中、利用者及び職員を守るために、アフターコロナとして感染予防を行いながらの受け入れをしていく。

(2)地域との共存

法人周辺の地域清掃活動は年 1 回行い、除草は随時行った。防災避難訓練は有事の際に周辺地域住民の協力を仰ぐところであるが、一体での訓練はできていない。

4. 職員満足度向上

(1) 安心安全な職場環境への整備

・受容と承認できる職場風土への転換は、道半ばであり、今後も継続していく。

・心理的安全性のある会議の開催に努め、提案や質問、課題を検討しやすい会議作りを行っている。

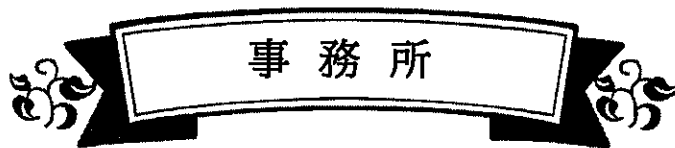
・定期的に職階層に沿って個人面談を行い、不安や悩みの解消に重きをおいて離職を予防した。一方で個々の介護への想いに沿えず、早期離職に繋がったこともあった。

・健常者も障がい者も同様に働ける場として、拡大読書・読み取りシステムの導入とスマートフォン対応の読み上げアプリを活用し、業務の効率化に役立てている。

(2) ワークライフバランス

仕事もプライベートも充実した調和の実現に向け、長時間労働、休日労働は事前に上司に承認を得て行うことで抑制を図っている。年次有給休暇の計画的付与や時間単位での有給休暇付与を活用し、連続休暇の取得促進も啓発している。

育児短時間労働や介護休暇、子どもの看護休暇の取得者も年々増えており、意識は定着してきた。新型コロナウイルス感染対策中はリモートワークもでき、職員が安心して今後も多様な働き方ができる職場としていく。



年度目標 働きやすい職場への支援

地域の中で福祉サービスを必要とする方々のために、満足度の高いサービス提供を行うことで地域の方々に存在価値を認められ、社会貢献の実感を職員が得られる職場づくりを目指してきた。この点においては単年度の目標ではなく、昨年度から継続するものだと考えている。職員が利用者のために望む介護や「やりがい」を十分に感じられるよう、現状把握と小さな課題解決を重ねていく。また自己実現・自己成長が叶う職場への風土づくりに、職員自らが取り組む姿勢を持って頂くよう働きかけている。

1. 上質なサービスの提供

(1) 正確な事務処理

介護報酬請求事務は事務職が全事業所の請求事務を行っているため、漏れが発生しないよう、事務職間及び現場職員との報告連絡相談を密にし、情報共有を図った。過誤返戻は各事業所年間2回を目標としたが一部達成できていない。

経理、受付、総務、人事、雑務など業務は多岐に渡る。どのような業務も責任ある重要な役割を担っていることを認識し、利用者様、家族様からは好印象と信頼を得るように努めた。

事務職が存在し、他職務の一端を担い協力することで職員の労働意欲向上に繋がる役割を果たすよう協働した。

(2) 良質な接遇

利用者様、家族様、関係機関等の窓口となり、来客対応及び電話対応に非常に多くの人と関わる中で、苦情ゼロには達せなかったが、丁寧な言葉遣いと丁寧な説明を心掛けている。

利用者の訴えは常に傾聴し、穏やかな生活の暮らしの継続に協力を惜しまなかった。

2. 経営基盤の強化

月次試算表から財務分析を行い、予算執行率や人件費、事業活動収支差額は、実績検討会議で報告することで経営状態の理解に努めている。予算要望を各事業所に求めることにより、予算管理と費用の抑制に繋がられ、概ね予算通りに執行できている。

(1) 残業の抑制

経理事務は事業所区分で職務分掌を行うことにより、内部統制管理の観点と業務の偏りによる超過勤務時間の抑制に役立っている。時間外勤務月平均3時間未満の目標は月平均1時間未満で達成した。

(2) 5S活動・5T活動

業務効率の向上と安全性の確保、快適な職場環境の実現のために5S活動を推進してきた。人とモノを探す時間の解消に、さらに対象を拡げ継続する。

(3) 勤怠管理ソフト導入による労務管理

クラウドで勤怠管理を行うことにより、紙の削減、労働時間の集計及び給与計算に係る工程と時間を大幅に削減し業務の効率化を図った。長時間労働による腰痛及び疲労、メンタルヘルス不調の予防のために労働時間を正確に把握できている。休暇届や超過勤務申請の機能の活用が課題である。

3. 地域との関わり

ホームページ更改 年間74回の更新。

広報誌の掲載や行事情報、新型コロナウイルスによる重要なお知らせも掲載した。情報発信ツールとして広告宣伝のみならず、より多くの人に法人の存在を知って頂くために活用している。

4. 職員満足度向上

(1) 感謝を言葉にして伝える

利用者様や家族様、職員の努力を褒め、感謝することは相手への敬意を表し、良い人間関係の構築に役立つ。グッジョブカードを使って、お互いに相手を認める職場環境への改善に励んでいる。

(2) コミュニケーション力を向上させる

相手の受容と共感姿勢を持ち、聞く力に重点を置いた。様々な人と関わる事務職は良好な対人関係を築くために、多角的な視点と思考力をもって、自他尊重の伝え方を磨いていかなければならない。

(3) 自己成長

自己成長は目的ではなく手段であり、モチベーションを維持し継続して働くためのもので、小さいことでもブラッシュアップできたことを、人事考課を通じて評価した。

地域貢献活動

活動内容

(1) 介護予防開催

鈴鹿市より受託した介護予防普及啓発事業は、今年度出前講座とWEB講座(ZOOM)で開催した。

<出前講座>

日時	内容	場所	参加者
R4. 4. 9	運動講座	ひばりやま公民館	14名
R4. 6. 11	運動講座	ひばりやま公民館	12名
R4. 10. 8	運動講座	ひばりやま公民館	13名
R4. 10. 18	運動講座	高岡町集落センター	15名
R4. 11. 9	運動講座	土師公民館	22名
R4. 11. 15	運動講座	肥田公民館	16名
R4. 12. 10	運動講座	ひばりやま公民館	12名
R5. 2. 11	運動講座	ひばりやま公民館	12名
年間8回	1種目	4自治会	延べ116名

<WEB講座>

期間	内容	回数	延参加者
令和4年8月から令和5年3月	運動講座	15回	38名

(2) 介護機器等の貸出し

令和4年度	品目	内容
1回	ポータブルトイレ	利用者様に貸し出し
1回	マッスルスーツ	他施設に貸し出し

(3) 社会参加活動の受入

学校名	実習内容	人数
三重県中央自動車学校	交通違反者のボランティア活動(除草・窓ガラス清掃・車椅子清掃)	33人

・コロナウイルス感染症の拡大・予防対策で一時的に受け入れを中止する時期があった。

(4) その他 地域貢献事業

事業名	実施主体
みえ福祉の「わ」創造事業 協力	三重県社会福祉協議会

・コロナウイルス感染(クラスター)発生施設に対し、ガウンやマスク、キャップ等の備蓄品を寄贈。

(5) 認知症カフェの開催

毎月30日に開催する予定であった認知症カフェは、飲食を伴う事業でもあり新型コロナウイルス感染拡大防止対策がとれず、すべて中止することとした。認知症に関心が高い参加者にとっては交流や情報交換の場として、また閉じこもりがちな参加者の活躍の場として賑わえるカフェが開催できず、地域の方々の生活の質向上の場の提供ができなかった。

今後への展望・課題

コロナウイルス感染対策を行い、介護予防教室の出前講座・WEB講座を開催した。今年度介護教室は、コロナウイルス感染症発生前の水準までの開催数まで戻りつつあった。しかしながらコロナウイルス感染症による閉じ籠もりで身体的な衰えも利用者の中にはみえた。今後も地域の方々が住み慣れた場所でこれからも生活していくために法人として介護予防の啓発など取り組む必要がある。

研 修 会

目 標：職員の資質の向上を目指し、サービス業としての意識改革を図る

大木歯科医院の協力のもと定期的に実地指導を受講できた。また、職員による勉強会の機会も昨年から比べて格段に増えてきた。今後も職員の自己研鑽の為にも内容を深め、継続していきたい。

新型コロナウイルス対策の中、WEB研修を大いに活用した。

園 内 研 修

(1) 実地指導

口腔ケア指導 年間18回 指導者:大木歯科医院 歯科衛生士

出席職員:延べ90人 看護師・生活相談員・施設ケアマネージャー・栄養士・介護士

(2) 内部研修会

研 修 名	実施日	参加人数	講師又は報告者
新任・中途採用者の採用時研修	4/1 4/5	10	鈴木施設長 古川在宅統括 加藤事務長
認知症サポーター養成講座	4/29	6	北野介護長
権利擁護・虐待防止について	6/29	8	鈴木施設長
食中毒予防について	7/13	5	羽田管理栄養士
おむつの当て方研修	7/13	8	ユニチャームケアアドバイザー&コーディネーター 森下氏
ハラスメントについて	7/21	5	加藤事務長
認知症の種類と症状について	11/2	7	矢田介護士
ノロウイルス汚物処理の実演研修	11/17	9	木下主任
法人理念・私たちの誓い理解研修	12/6～20	44	施設長 在宅統括 事務長 センター長
人事考課面談研修	2/2	14	㈱日本経営 小森氏

10回延べ 116人

(3) 動画視聴による研修

研 修 名	参加人数	内 容
認知症への対応・認知症理解	7	
不適切ケア	30	虐待・身体拘束
リスクマネジメント	7	事故予防・転倒予防・緊急時対応
人権及び権利擁護	1	
看取り・ターミナルケア	2	
感染予防対策	3	インフル・ノロ対策
高齢者の理解	12	疾病の特徴・行動心理・真の主訴
介護技術・知識の向上	38	口腔ケア・拘縮・記録・排泄・レクリエーション
人材育成・接遇	10	後輩指導・接遇マナー・教育・チームワーク
職員安全衛生	6	腰痛予防・メンタルヘルス

延べ 116人

外 部 研 修

- 全国社会福祉協議会・全国老協・全経営協

研修名	実施日	参加人数	研修場所
第一回三重県認知症介護実践者研修	6月24日	1	Web
全国経営協/人事・労務	7/28-29	1	Web
全国経営協三重県セミナー	9/30	1	三重県社会福祉協議会
社会福祉法人会計の基礎知識	10月17日	1	Web
東海北陸ブロックカンントリーミーティング	2月8日	1	Web
認知症疾患医療センター全国研修	1月28日	1	Web

6回 6名

- 鈴鹿保健福祉部・鈴鹿地区連絡協議会・鈴鹿地区介護支援専門員協議会・鈴鹿保健所・鈴鹿市役所関係・鈴鹿市サービスセンター協議会

研修名	実施日	参加人数	研修場所
第一回ACP委員会	4月26日	1	鈴鹿市市役所
新型コロナウイルス感染症対策研修会	5月26日	1	Web
第2回ACP委員会	6月28日	1	鈴鹿市役所
第一回鈴鹿地区老人福祉施設協会理事会	6月28日	1	Web
鈴鹿市防災危機管理課BCP研修	7月26日	3	Web
鈴鹿市デイサービス事業所連絡協議会研修	3月17日	2	Web

6回 5名

- 三重県老協・県社協・県経営者協議会・県健康福祉部・県サービス協議会・三重県介護支援専門員協会 等

研修名	実施日	参加人数	研修場所
退職手当共済制度初任者等実務研修	5月25日	1	Web
安全運転管理者講習	6月2日	1	四日市文化会館
介護支援専門研修課程Ⅰ・Ⅱ	6月7月	4	Web
令和4年度介護福祉士実習指導者講習会	6月7月	2	Web
地域密着型サービス事業者等の集団指導	7月	1	Web
三重県認知症介護実践者研修	6~9月	7	Web
三重県福祉栄養士研究会研修	11月3月	2	Web
三重県認知症実践リーダー研修	11月12月	2	Web
介護支援専門員協会研修会	12月3月	4	Web
介護支援専門員研修	12月3月	2	Web
広報講習会	12月20日	1	Web
三重県認知症介護基礎研修(第三回)	1月18日	1	Web
21世紀委員会研修会	2月14日	1	Web
三重県サービスセンター研修会・勉強会	2月3月	2	Web
認知症サポーター養成講座	2月26日	1	Web
介護休業制度	2月28日	1	Web

延べ33名

安全衛生

1. 防災対策振り返り

防災訓練をはじめ、BCP(事業継続計画書)の作成を一年間通じて各事業所が連携を取りながら実施することができた。結果として特養の感染時、居宅、通所、訪問等のBCPを作成できた。今後は、職員への周知を図るとともに一年に一度BCPの見直しを図る。

課題

災害時に備えて、BCPを役職者が理解することが必要である。その上で一般職への周知を図り、有事の際に対応できる体制を整える。次年度は、BCPの周知に力を注ぐ。

消防・設備機器メンテナンス実施内容

① 定期実施

- 消防訓練(総合訓練2回 部分訓練7回)
- 浄化槽点検(大栄管清土木1回/月)・電気設備機器保守点検(日本テクノ1回/2ヶ月)
- エレベーター点検(SEC EV1回/2ヶ月)・自主建築検査(防火管理者1回/月)
- 厨房消毒(ダスキネスプリ1回/偶数月)

②年1回実施

- 水質検査(三重環境事業団)・受水槽清掃(東産業)・特殊建築物設備等法定検査(藤川設計)

③ 業務委託契約に基づいた保守点検

月	実施内容(消防訓練・設備)	
4月	防災設備機器点検(北勢防災) 新人職員防災教育	洗濯機・乾燥機保守点検(ビクター商事)
5月	特養消防訓練(避難誘導)	空調機保守点検(トーエネック)
6月	GH消防訓練(避難誘導)	ワックス掛け(ダスキ)
7月		浄化槽汚泥引き抜き(快晴興業)
8月		
9月	通所消防訓練(避難) 法人消防訓練(総合訓練) 消防設備法定点検	
10月	特養消防訓練(通報・消火・避難)	洗濯機・乾燥機保守点検(ビクター商事) 浄化槽法定点検(三重環境事業団)
11月	GH消防訓練(通報)	電気設備機器漏電検査(日本テクノ) ワックス掛け・空調機換気扇清掃(ダスキ)
12月		ピット汲み取り(大栄管清土木)
1月		
2月	法人消防訓練(通報)	受水槽・高架水槽清掃点検(東産業)
3月	通所消防訓練(避難) 法人総合消防訓練・消防設備法定点検	水質検査(三重環境事業団)

2. 施設整備及び修繕等の実施内容

グループホーム見守りセンサー設置工事

3. 職員・職場 安全衛生

みんなが気楽に働きやすい環境作り、笑顔の多いストレスフリーな職場、怪我を防止し、労災の無い職場づくり、誰に対しても優しい職員を増やそう、嫌な思いをさせない職場にしよう、を目標に、「働きやすい職場を目指すために何ができるか」事業所を超えて話し合う場であることを安全衛生委員として一人一人が自覚をし、非常に前向きに認識し、関連な話し合いと危険箇所の撤廃、有効な対策を発信することができた。

実施内容

1. 安全衛生委員会の開催 毎月1回 第二木曜 16:00～16:30～ 全12回開催

職員の健康維持と増進、労働安全、労災対策を目的として開催した。

労働災害についてのリスクアセスメントを実施し、再発防止対策を労働局に報告した。

2. 労働環境整備

職場環境別チェック表を使用したチェックを数か月に1回実施し、修繕し安全確保に努めた。

3. 交通安全対策

交通事故報告件数

H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
5件	5件	3件	4件	6件	6件	7件	9件	9件	5件

交通事故は物損事故が8割を占める。職員及び利用者が受傷する事故は発生していない。

4. 腰痛対策:6月、12月に問診票による腰痛検査実施(6/13・12/20)

腰痛あり 6月検査 51.5%、同月前年比 3.2%減。12月検査 61.8%、同月前年比 3.6%増。

希望者には腰痛予防ベルトを貸与し予防策の一環とすると共に、腰痛予防体操の実行を推奨した。

腰痛予防にスライディングシート・ボードの導入は進んでおり、腰痛対策としての意識は向上している。

5. メンタルヘルス対策・ストレスチェックの実施 (6/3～6/30)

ストレスチェックの基本方針に則り、メンタルヘルスチェックを6月に実施し、99名が受診した。

高ストレス者 11名 割合 11.1%。昨年度より 3.2%減少している。ストレス要因は身体的負担と質的負担、職場環境が高い。産業医との面談指導対象者はいない。面談指導希望者もいなかった。

6. アンケート・調査

働きやすい職場づくりを推進するため、職員の考えや現状理解につなげる調査を行った。

快適職場調査(5/14～5/27) 正規職員対象 74名に快適職場調査を実施。

7. 職員健康診断・予防接種

年2回、6/13・12/20に定期職員健康診断を実施。二次検査を要する職員は24名、再検査結果の提出を求めている。

インフルエンザ予防接種の実施 11月-12月。

新型コロナウイルス予防ワクチン接種 第3回目 1/31～実施,第4～5回目については各自病院接種。

副反応による体調不調は1日分を特別休暇とした。

8. 有給休暇取得促進

働き方改革推進法による計画有休5日の取得もあり、休暇は取りやすくなっている。快適職場調査結果にも表されてきた。取得率70%を目標とし、62.9%に留まったが、昨年より6.5%上昇した。

9. 職員の休業・休職

産前産後育児休業取得者1名、子どもの看護休暇の取得者6名、介護休業取得者1名。

育児・介護等に関する休暇・休業の相互理解が進み、浸透してきた。優秀な人材が離職せず、制度を利用しながら仕事と家庭の両立支援ができる事業所としてさらに促進を図っていく。

10. 一般事業主行動計画・次世代育成支援対策の取り組み

次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画の取り組み。

子ども参観日はコロナウイルス対策中であり、実施できなかった。

ノー残業デーの実施・・・特養年24回、訪問介護24回、在宅訪問介護以外年24回計画した

11. 労働災害

労働災害件数(疑い含まず)

H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
2件	2件	1件	0件	0件	1件	1件	1件	1件	4件

介護現場でコロナウィルスによる労災が 4 件発生した。労災は委員会で検討し、ポスターの作成掲示等の再発防止に努めている。

今後の課題

1. 安全衛生委員会

産業医へ定期的に又は必要時に報告相談をし、意見やアドバイスを得ているが、労働安全衛生をさらに活性化するため、産業医との連携を強化する。

安全衛生委員会で話し合ったことを全職員が理解し、職員自身が実行する自覚も必要である。そのために安全衛生委員会の存在感を高め、発信力の強化をしていきたい。

2. 労働環境

腰痛が発生しやすい職場であることの意識は向上してきたが、さらに理解を深め、介護機器の導入や自己防衛策の実行と定着をさせる必要があり、介護機器の使用に対する意識改革と導入に至る丁寧な説明を早期に行い、職員の腰痛予防対策を強化する。

ストレス要因の多い職務、職場であることの認識を深めて、ストレス回避、発散できる環境の設置やセルフチェック、ラインによるケアの拡大拡充を行う必要がある。

定期的な見回りを強化し、危険箇所の発見や5S活動、5T管理の推進を行い、安全な職場を継続する。

委員会活動

1. リスクマネジメント委員会 第2月曜日 10:30～ 年間8回 開催

委員会目標は前年度と同様「思い出す力」とし、記録の充実、報告の徹底、連絡の徹底を目指したが完璧に行えたとは言えない。またコロナの蔓延にて委員会自体の開催も行えない時もあった。

アンケート等行い、委員会の活動は行った。次年度は事例検討を中心に行っていく予定。安全対策委員会の意味合いも兼ねているため並行して行っていく。

2. 身体拘束廃止委員会 第4火曜日 10:30～ 年間10回開催

委員間での会話を大切に一年の目標は「同じ方向を見て過ごしましょう」とした。年代や事業所の異なるメンバーであるが、かかわるご利用者様は同じ大切な人生の大先輩である。

「身体的拘束の適正化のための指針」「身体拘束廃止マニュアル」「緊急やむを得ない拘束に関する説明書」「身体的拘束・行動制限の対象となる具体的行為」をもとに進めてきた。

各委員担当フロアをもち、事故報告・ヒヤリハットから不適切ケアの報告を月々実施。

「虐待の芽チェックアンケート」は、入所施設・通所施設・訪問介護の職員の協力のもと実施できた。回収後、結果を分析し改善策を委員間や各事業所で講じることができた。

コロナ感染対策期間で隔離中のご入所者様の疲労や閉塞感のことは今後の課題になってくる。委員間で閉塞感についてはどのように対応していくべきなのか？と迷った声が強くあった。この不安や迷いも大切にしたい一つである。何度も仲間と話合ながら学習し研修できる環境が必要である。

3. サービス向上委員会 第2木曜日 15:30～ 年間7回開催

サービスの質の向上を目標にして「接遇」に対して必要なことは何かと考え、毎月ミニ学習会を行い、質の向上・知識の再確認を行った。また挨拶、言葉遣い、向上心に関するアンケートを実施しマイスター表彰をした。事業所ごとにも集計し発表した。互いに認め合う事でチーム力の向上・質の向上に繋げていける風土が根づくことを願い職員個々、また法人全体の意識レベルを高め、継続した取り組みを行っていききたい。

4. 感染対策委員会 第3木曜日 15:45～ 年間7回開催

本年度も、キャッチコピーを「めざそうよ、力をあわせて コロナゼロ」と掲げコロナウィルス感染症対策を中心とした活動を行った。個人防護具の着脱方法の実演研修をおこなうとともに、マニュアルの見直しをおこなった。2つ目に感染者が発生した時の初動対応のシミュレーションをおこなった。コロナ発生時には想定していた状況と、発生時の状況に若干の違いがあり対応を変更した。このことよりあらゆる状況の想定を考えていかななくてはならないと今後の課題である。また、感染症の持ち込みがあったとしても最小限とどめることが出来るよう感染拡大予防を考えた、根拠の周知・手技の習得に関しての実演研修を継続し行っていく。

5. 広報委員会 第3金曜日 10:30～ 年間8回開催

キャッチコピーは「レッツエンジョイイベント」とした。ホームページの随時更新。今年度も昨年度同様に年2回の広報誌を発行。法人・事業所のPRとし役立てた。本館に事業所別に職員の紹

介写真を掲示し、来園される方への見える化の継続。今年度の課題として全事業所からのホームページ記事掲載ができなかった。日常業務の合間での活動時間が作れなかった。昨年度の課題を継続してしまった物もあったが、コロナ感染症蔓延にて委員会が開催できなかつたりしたが今年度の活動を無事に終えた。

次年度は、ホームページ業者変更となりリニューアルしたホームページで全事業所からのホームページ記事掲載。更新の定期化を図りたい。

6. 研修委員会 第3水曜日 10:30～ 年間5回開催

キャッチコピーに「今日の学びが明日を作る」を掲げ、今年度も委員メンバーで事業所ごとに担当を決め、一人ひとりが動画閲覧研修を月1回以上実施する形で研修を行ったが、12月のコロナ蔓延から終息しても受講が出来ていない職員が増えた。

来年度は月1回の動画研修報告をしっかりと受けることと、事業所ごとの研修や外部研修への参加で職員のスキルアップを図る。

特別養護老人ホーム

目標： ひとりひとりが大切な人

1. 上質なサービスの提供

- ・利用者様主体の個別ケアを実施するための小集団介護の実施は、利用者のことをより詳しく把握できるきっかけとなった。しかし、フロア責任者を決定し実行したが職員の退職や配置人数、多職種間の連携が上手く取れず軌道にのれなかった。
- ・利用者年2回以上の担当者会議を開催して多職種で意見交換を行い、ケアプランに沿ったケアの統一を図るように努めた。
- ・役職者会議（1回/月）、多職種間会議（1回/月）で方針について話し合い、課題解決に向けて努めた。（コロナの時期は開催できなかった。）
- ・法人理念・私たちの誓いを法人内で理解・唱和し、15分研修等を受け接遇マナー向上を図った。
- ・リスクマネジメントを推進した結果、事故（11.6件/月）であった。コロナ明けによる利用者の状態変化による転倒、転落、骨折などの事故が多かった。ヒヤリハットの報告は徐々に増加傾向にある。
- ・ケアプランの意向確認・サービス内容について3件の苦情を受けた。
- ・法人理念共有のために正規職員・パート職員と茶話会を12月に開催し意見交換を行った。
- ・ターミナル時の食事提供を家族と多職種で検討し、最期まで楽しんでいただける工夫を行った。
- ・季節に応じて旬の食材を使った献立（うなぎ丼・クリスマスメニュー等）作りに努めた。
- ・給食会議で多職種・給食会社と情報交換を行い、利用者に喜ばれる食事提供に努めた。
- ・新型コロナウイルス禍において、ケータリング食や使い捨て食器を使用し食事の変更も行い、少しでも食べていただけるよう工夫した。
- ・ミールラウンド（3回以上/週）を行い、利用者の食行動・意欲・姿勢など多職種と連携をとり、丁寧な栄養ケアマネジメントを実施した。
- ・食事や水分量だけでなく、姿勢や飲み込み具合など、個人状態をみて介助食器や栄養食を提供した。
- ・スクリーニング・アセスメントにより、中・高リスク者が増えたときは、食事提供や栄養食など改善に向けての多職種との相談・検討を行った。
- ・状態悪化防止・改善のために利用者の状態にあった栄養補助食品の使用を多職種と検討し提供した。
- ・外部契約の理学療法士と連携して、立位動作・歩行機能の低下進行予防、維持に関して重点的に訓練を行っている。利用者の生活の中で自力歩行・トイレ使用の維持は成果が見られている。

2. 経営基盤の強化

- ・年間稼働率96.5%、入院率1.59%/月、退所から入所までの空床が421日であった。
- ・日用品のコスト削減の職員ひとりひとりが意識を持ち、日々の物品を大切に扱った。しかし、物価高の影響があり、コスト減につながらなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策のために換気・消毒・検温チェックを行った。しかし8月、12月、1月と施設内で新型コロナウイルス感染症が蔓延し職員利用者ともに多くの罹患者が発生した。

3. 地域との関わり

- ・法人内の定期的な防災訓練を実施した。コロナ禍により地域の方参加の防災訓練開催はできなかった。
- ・来客者に対して職員が進んで挨拶した。

4. 職員満足度向上

- ・エルダー制の導入によって新人職員が安心して仕事を行えることができた。今後も継続していく。
- ・研修を定期的受講し、人材育成に努めた。時給職員にも促し、受講ができればさらに良かった。
- ・各フロアでスライディングボードを活用してノーリフティングを実施した。
- ・有給休暇を年間6日以上全職員が取得することができた。

今後の課題

- ・感染症の蔓延防止、平時からの感染対策を行う。
- ・コロナウイルスの影響で初回面談がしっかりできなかったため入所時の情報と状態が異なり、情報収集を取れる手段を多方面から考えるべきであった。
- ・5W1Hを意識した記録をできるようにする。記録が不足し、事故の原因、後追いが不十分であった。
- ・多職種間で、ケアの方向性の統一が不十分であったため、意見交換を活発にしてケアの統一を図る。
- ・腰痛予防のためにノーリフティングケア（腰痛ベルトの着用）を進めていく。
- ・中途採用の正規職員・時給職員へのエルダー制度を導入して、人材定着対策を行う。
- ・身体異常の早期発見と、疾病予防に努めていく。また、重度化防止のため、嘱託医との連携に努める。
- ・普段の食事から嚥下調整食分類表を指標とした、調整食の提供を行う。
- ・疾患により関節の拘縮・変形の進行、認知機能の進行予防のために看護・介護・機能訓練指導員で連携を取り、日常生活の中で行う訓練を実行・定着する。

3. 入所待機者の状況

(1) 入所待機者数

申込者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
申込者数	9	4	4	5	5	7	5	6	3	6	4	5	63
待機者数 (月始)	70	70	72	72	74	72	73	77	75	75	77	79	平均 73.8
待機者数 (月末)	70	72	72	74	72	73	77	75	75	77	79	77	平均 74.1

※8月に入所待機者宛に状況確認調査を実施。

(2) 入所申込者の状況

(令和4.3.31現在)

	年 齢 別					介 護 度 別				
	65歳未満	65～79歳	80～89歳	90歳以上	合計	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男	4	18	21	6	49	0	24	17	8	49
女	0	2	18	8	28	1	16	8	3	28

(3) 入所申込者の居住状況

	自宅	老人保健施設	病院	グループホーム	養護老人ホーム	その他の施設	合計
男	19	0	17	2	0	11	49
女	14	0	3	3	1	7	28

4. 入所者の状況

(1) 入退所状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	2	1	2	1	1	3	1	1		4	2	19
退所者数	1	0	2	3	1	2		1	2	3	1	2	18
入所者数 (月末)	78	80	80	79	78	77	80	80	79	78	79	78	

(2) 入所前の居住状況

	自宅	老健施設	病院等	グループホーム	養護老人	その他	合計
男	5	0	1	0	0	1	7
女	7	0	1	1	0	3	12
合計	12	0	2	1	0	4	19

(3) 退所者の退所理由とその原因

	死 亡		長期 入院	呼吸器 系疾患	循環器 系疾患	消化器 系疾患	腎泌尿 器疾患	老衰	不明	他施設 入所
	施設	病院								
男	5	2	1	3	2	0	0	1	0	0
女	8	1	2	1	0	1	0	4	0	0
合計	13	3	3	4	2	1	0	5	0	0

(4) 入所者の年齢

年齢	年 齢 別					平均 年齢
	65歳 未満	65歳 ～ 69歳	70歳 ～ 79歳	80歳 ～ 89歳	90 歳～	
男	0	1	10	7	3	83.7
女	0	1	12	30	12	

(5) 出身地別

	出 身 地 別							
	市 町村	鈴 鹿 市	亀 山 市	四 日 市 市	津 市	度 会 町	いな べ 市	名 古 屋 市
男	21	0	0	0	0	0	0	0
女	52	1	0	0	0	1	0	1

(6) 入所者の要介護度別

介 護 度	1	2	3	4	5	計
男	1	2	1	13	4	21
女	2	1	14	18	20	55

(7) 在園期間

年数	1年未 満	1～2年	3～5年	6～10 年	11年 以上
男	6	6	3	3	3
女	11	15	16	10	3

(8) 日常生活自立度

ランク	J	A1	A2	B1	B2	C1	C2
男	0	3	1	5	7	0	5
女	0	10	2	5	15	2	21

(9) 認知症高齢者自立度

ランク	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	V
男	0	4	0	9	5	0	3	
女	0	7	18	0	14	0	16	

5. 実施した主な行事

月	内容	月	内容
4月	・誕生会 ・花見	10月	・誕生会
5月	・誕生会 ・家族会役員会	11月	・誕生会 ・長寿のお祝い
6月	・かき氷・家族会総会 6/7 ・クリームソーダ	12月	・誕生会 ・保育園合同クリスマス会
7月	・クリームソーダ ・かき氷 ・保育園七夕会 ・誕生会	1月	・新年のあいさつ ・誕生会
8月	・誕生会	2月	・誕生会
9月	・彼岸法要 ・誕生会 ・クリームソーダ ・敬老の日	3月	・彼岸法要 ・花見

6. 実習生の受け入れ

鈴鹿オフィスワーク介護実習Ⅱ	:	6月30日～8月8日	2名
高田短期大学介護実習Ⅲ	:	2月10日～3月10日	2名
石薬師高校インターンシップ	:	7月26日～7月28日	1名
千代崎中学職場体験	:	11月8日～11月11日	4名
三重県社会福祉協議会	:	2月9日～2月10日	1名

7. 受診・施設内感染症の状況

(1) 病院受診

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高木病院	10	8	35	16	40	40	31	16	13	49	13	12	283
腎クリニック	4	4	4	8	6	7	3	15	9	8	8	10	86
鈴鹿中央総合病院	2	7	10	5	5	8	5	5	8	4	9	6	74
鈴鹿回生病院	1	0	0	2	0	1	0	0	0	1	1	0	6
しま皮膚科	3	0	1	1	3	4	8	2	2	1	1	4	30
スマイル眼科	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
膠原病クリニック	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	1	8
尾池整形	1	2	0	1	1	0	0	5	2	2	3	1	18
鈴鹿厚生病院	0	1	0	1	0	1	0	1	2	1	1	1	9
大木歯科医院	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	3	0	8
その他	4	2	1	7	1	1	3	1	1	3	3	0	27
計	28	24	54	43	59	62	51	45	38	70	44	35	553

- ・年間総受診件数が増加（前年度 433 件）。今年度施設内コロナ感染があり、高木病院受診が増えた。
- ・鈴鹿中央総合病院の年間受診件数が増加（前年度 55 件）。受診内容は、入所以前からの持病（悪性腫瘍、心疾患）などの通院継続に加え、腫瘍の精査や治療など、専門的な検査や加療を要する件数が年々増加している。

(2) 入院対応・・・19 件

軽快退院し入所継続	10 件
入院の継続にて退所	2 件
死亡	6 件

- ・コロナ感染しその後体調がなかなか回復せず持病の悪化や食事摂取低下が続くなどにより入院加療を必要とされた方など、コロナ感染がきっかけとなった方が 7 名であった。

(3) 健康管理

※4月 血液検査（糖尿病 11 名、貧血治療者 0 名、その他栄養状態観察者 6 名）・・・計 17 名施行

※9月 胸部レントゲン撮影・・・入所者様全員

要経過観察 23 名、要精密検査 3 名 結果、結核を疑う入所者はいない。

※11月 健康診断（血液検査）・・・入所者様全員

※11月～12月 インフルエンザ予防接種・・・入所者様 86 名、職員 111 名

(4) 褥瘡への取り組み

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
車椅子時ズレ 圧迫	3	5	5	5	3	5	4	3	2	3	5	2	45
臥床時の圧迫	4	3	2	0	2	3	3	4	4	6	10	7	48
その他	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
発生数	9	10	8	5	5	8	7	7	6	9	15	9	98

・機能訓練指導員と介護・看護で車椅子を本人の身体や姿勢に合ったものへの変更と座面の工夫、栄養士より栄養状態の把握と栄養面からのアプローチ、日々予防のため介護・看護により皮膚状態チェックと皮膚保護軟膏塗布など多種職で取り組んでいる。

・ベッドのマットについても、本人の身体状況や姿勢によりあったものを選択している。

※2月の発生数増加に関しては施設内コロナ感染があり、ベッドでの安静期間を長く強いられたことによるものとする。今後は安静による弊害を念頭に置き支援の改善に努める。

(5) コロナ感染者罹患者

R4年8月、コロナ感染者発生 入所者様9名（新館のみにとどまる）

R4年12月～1月コロナ感染者発生 入所者様45名（本館1階から2階に発生。新館3階のみで新たに発生）

(6) 感染予防対策（コロナウイルス）

予防接種・・・R4年10月、入所者様 4回目コロナワクチン接種

感染対策・・・1) 施設全体で朝の一斉掃除（消毒）、換気の継続と、食事前後のテーブルや手指の消毒、適宜の換気は継続し行っている。

2) 職員の健康チェックとして出勤時の検温・症状観察を記録の継続。

3) コロナ抗原検査の活用。

4) 感染拡大予防のための施設内研修、発生時対応のシミュレーションを行った。

5) R4年度は施設内コロナ感染が発生し、今後の課題として感染拡大予防のための平常時からの対策がさらに必要であり対策を行っていく。

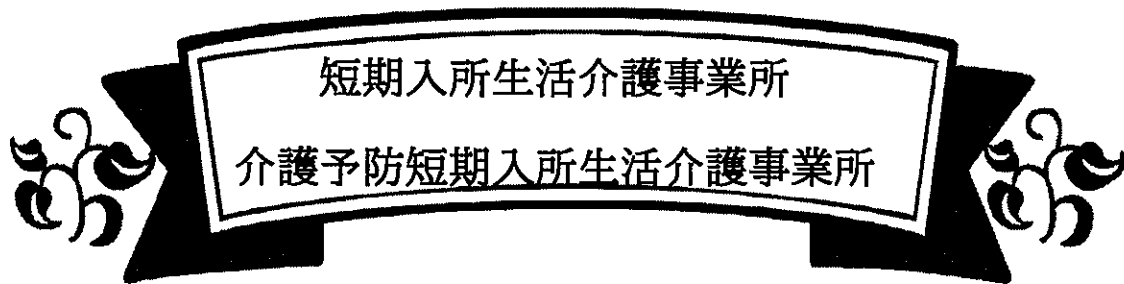
8. 栄養・食事の提供

(1) 行事食実施状況

行事名	内容	実施日	回数	対象者
海鮮ちらし寿司	お刺身を楽しむ	4月21日	1回	特養・短期・通所
端午の節句	節句料理（昼食）	5月5日	1回	特養・短期・通所
親子ちらし寿司	ちらし寿司（昼食）	5月11日	1回	特養・短期・通所
土用丑の日	うなぎ丼（昼食）	7月23日 8月4日	2回	特養・短期・通所
敬老週間	松華堂弁当（昼食）	9月15・16・17日	3回	通所
敬老の日	お祝い食（昼食）	9月19日	1回	特養・短期・通所
長寿を祝う会	にぎり寿司（昼食） 和洋菓子盛合せ（間食）	11月7日	1回	特養・短期・通所 特養・短期
クリスマス	クリスマスケーキ（おやつ）	12月25日	1回	特養・短期
大晦日	年越しそば（夕食）	12月31日	1回	特養・短期・GH
新年のお祝い膳	松華堂弁当（昼食）	1月5・7・8日	3回	通所
七草粥	七草粥（朝食）	1月7日	1回	特養・短期
小正月	小豆粥（朝食）	1月15日	1回	特養・短期
節分	恵方巻き（昼食）	2月3日	1回	特養・短期・通所
ひな祭り	にぎり寿司（昼食）	3月3日	1回	特養・短期・通所
春の和菓子	みたらし（おやつ） 桜餅風	3月17日	1回	特養・短期・通所
誕生会	誕生日メニュー（昼食）	毎月	11回	特養・短期

(2) 栄養ケアマネジメント（低栄養状態のリスク状況）

	低リスク者（人）	中リスク者（人）	高リスク者（人）	退所者（人）	新入所者（人）
4月	37	31	10	1	1
5月	33	34	12	0	2
6月	31	33	15	2	1
7月	32	34	14	3	2
8月	33	35	11	1	1
9月	34	34	11	2	1
10月	33	36	10	0	3
11月	32	37	10	1	1
12月	32	37	10	2	1
1月	29	36	13	3	0
2月	29	35	16	2	4
3月	28	37	15	2	2
計	383	419	147	19	19



定員 10 名 特養併設型空床型

目標： 利用者様と家族様の信頼・理解を深めケアの質の向上を目指す

1. 上質なサービスの提供

- ・利用者様・家族様のニーズに沿ったサービスの提供するために細やかな申し送りを生活相談員から朝礼・申し送りノートを活用し現場に発信した。
- ・利用者様が住み慣れた場所で生活を継続していくために、利用者様・家族様・関係機関と情報共有・連携して支援を行った。
- ・利用者様・家族様への利用後の報告書の記入に介護士だけでなく生活相談員などが関わることでより具体的な報告ができるようになった。
- ・来園時、帰宅前とダブルチェックで持ち物検査を行っているが忘れ物ゼロに達することができなかった。
- ・交通法規を遵守し、無事故・無違反で送迎することができた。
- ・利用者様満足度調査を実施することができなかった。
- ・リスクマネジメントを推進した結果、苦情ゼロ・事故 30 件であった。
- ・法令を遵守し、個人情報・プライバシー保護を徹底した。

2. 経営基盤の強化

- ・稼働率は、80%であった。(8月12月1月とコロナの影響で事業を縮小した。)
- ・居宅介護支援事業所と連携を密にすることで新規の利用者を 35 件(目標 30 件)獲得できた。
- ・空室状況の案内・電話での空き状況の連絡等を居宅介護支援事業所に行った。
- ・感染症対策として、利用時の手指消毒の徹底、コロナウイルス抗原検査等実施した。

3. 地域との関わり

- ・行政・医療・地域・介護と情報共有・連携することで緊急ショートステイの受入を行った。
- ・施設の情報など行政や地域にホームページ等を通じて発信した。

4. 職員満足度向上

- ・災害に対応するために法人内の防災訓練に参加した。
- ・年間で有給休暇 6 日以上取得し、計画的に連続休暇を取得した。
- ・5S 活動に取り組み、業務の効率・安全性の確保・快適な職場環境を目指したが整理整頓の部分が不十分であった。

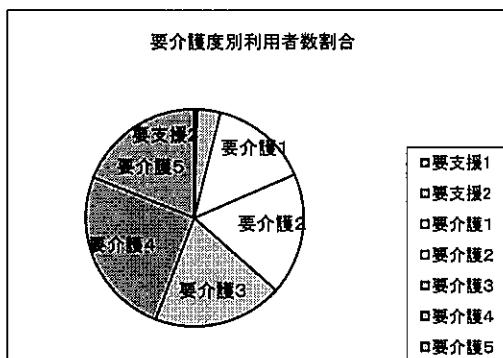
今後の課題

- ・利用中の記録に 5W1H を意識し、具体的かつ明瞭に記載する。
- ・利用者様の持ち物チェック方法の見直しを行い、忘れ物ゼロを目指す。
- ・利用者様満足度調査を実施し、利用者様のニーズを図る。

特養併設(空床利用) 指定短期入所事業 定員 10 名

	受入 日数	1日当 たりの 利用者 数	利用者数										食事提供日数			送迎			初利 用者 受入 人数	空床利 用者数 日数
			人数 計	要介護度別					食数計	有	無	総送 迎数	迎	送						
				申 請中	予 防2	予 防1	1	2							3	4	5			
4月	190	6.333	190		6		36	38	25	36	49	190	190	0	51	27	24	2	21	
5月	304	9.806	304		8	8	81	45	30	48	84	301	304	0	54	28	26	1	42	
6月	252	8.4	252		10	4	22	42	48	99	27	252	252	0	52	28	24	3	35	
7月	220	7.097	220		13		22	67	44	62	12	220	220	0	68	37	31	6	37	
8月	260	8.387	260		18		15	84	33	105	5	260	260	0	53	28	25	4	30	
9月	234	7.8	234		12		31	72	31	64	24	234	234	0	53	28	25	5	52	
10月	282	9.097	282		16		66	36	48	67	49	282	282	0	53	30	23	3	25	
11月	298	9.933	298		6		50	37	70	80	55	298	298	0	49	26	23	3	26	
12月	241	7.774	241		3		43	28	55	42	70	241	241	0	33	17	16	1	12	
1月	132	4.258	132				31	5	31	3	62	132	132	0	1	1	0	1	0	
2月	245	8.75	245		3		18	25	92	60	47	245	245	0	37	20	17	4	40	
3月	237	7.645	237		6		6	47	48	66	64	237	237	0	41	22	19	2	21	
合計	2895	7.932	2895	0	101	12	421	526	555	732	548	2892	2895	0	545	292	253	35	341	

要介護度別実利用者数構成率	延べ利用者数	
要支援1	0%	12
要支援2	3%	101
要介護1	15%	421
要介護2	18%	526
要介護3	19%	555
要介護4	25%	732
要介護5	19%	548
合計		2895



月	営業日	受入日	利用率	平均 要介護度	介護保険 利用料収入	滞在費 収入	食費 収入	全額自己負担 収入	前年度比
4月	300	190	63%	3.03	2,231,849	287,360	347,880	17,693	87.7%
5月	310	304	98%	2.87	2,301,287	641,370	407,425	32,080	122.9%
6月	300	252	84%	3.10	2,108,566	290,793	359,310	27,356	102.3%
7月	310	220	71%	2.71	2,509,892	341,913	410,655	18,679	78.7%
8月	310	260	84%	2.80	2,365,610	299,591	367,735	22,842	84.4%
9月	300	234	78%	2.75	2,071,163	266,183	324,815	21,904	79.1%
10月	310	282	91%	2.82	2,552,634	324,086	390,550	47,353	101.5%
11月	300	298	99%	3.12	2,742,857	344,863	420,835	68,283	118.2%
12月	310	241	78%	3.24	2,056,115	261,867	315,395	47,061	76.2%
1月	310	132	43%	3.45	1,158,980	155,703	194,705	47,856	40.1%
2月	280	245	88%	3.34	2,328,721	289,068	359,255	26,123	89.1%
3月	310	237	76%	3.49	2,314,340	273,535	332,555	43,037	97.8%
合計	3650	2895	79%	3.06	26,742,014	3,776,332	4,231,115	420,267	87.8%
平均	304.2	241.3	79%	3.06	2,228,501	314,694	352,593	35,022	89.8%

送迎範囲: 鈴鹿市、旧楠町内

特記事項:

8月、1月、2月に特養にてコロナ発生により受入縮小。

通所介護事業所

介護予防・日常生活支援 総合事業所

目標 : ONE FOR ALL ALL FOR ONE ~みなさんとともに~

1. 振り返り : 通所介護事業 定員35名

今年度、新しい事への取り組みの意識向上にて、勉強会の実施や地域の清掃活動への参加、テスト形式での利用者対応確認シート、インスタグラムの開始、デイサービス地域解放デーの実施、ケアマネへの満足度調査の実施等、役職者だけでなく一般職や時給職員からも様々な案が出て実施する事ができた。資格取得へのサポートを行い、介護福祉士2名合格へ繋がった。

コロナ感染拡大にて事業を縮小せざるを得なくなり、利用者には多大なる迷惑をかけてしまった。収益にも影響が出たが、年間延べ利用者数は目標の9000人を上回る事ができた。

ケアマネ・利用者様、アンケートにて概ね良い評価を頂き、今後も接遇強化と機能訓練や余暇活動を充実させた営業を継続していく。

職員の人材育成、年度末より慢性的な人材不足、コロナ対策にて休憩等で一人の時間が増えた事、ノー残業の意識向上にて業務終了後にコミュニケーションをとる時間が少なくなった事によりチームとしての底上げが不十分であった。

<上質なサービスの提供>

目標	結果
法人内外の事業所との連携。	電話・メールを活用して情報共有・連携を図った。
利用者満足度調査の実施。	アンケートを実施。概ね良い評価を頂けた。また、定期利用の空きがない状態が続き、待つて頂く利用者もあった。

<経営基盤の強化>

目標	結果
利用者数の確保。稼働率向上。	年間延べ利用者数9080名。稼働率100.88%。年間予算達成。
各種加算の取得。	新たにADL維持等加算Iを取得。
安全運転を行い交通・物損事故ゼロ。	交通・物損事故4件。

<地域との関り>

目標	結果
地域への発信・行事等への参加。	地域の清掃活動への参加。毎月の広報誌の発行。デイサービス地域交流会の開催。近隣施設との共同バザーへの出店。
地域へのデイサービス事業の啓発。	通所型C事業の運営。今年度3クール運営。

<職員満足度向上>

目標	結果
職員のレベルにあった研修会への参加。	デイサービスでの園内研修(1回/月)、認知症実践者研修へ参加。他各種ZOOMで参加ができる研修に参加。
資格取得(社士・介福・CM)の推進。	介護福祉士2名合格。
行動評価表を用いた育成。	平均70点以上を目標。目標達成している。
有給取得の推進。	以前に比べ取得できているが、職員によってムラがある。
職員満足度向上の為、働きやすい環境を作る。	職員の業務提案に関して、余程でない限り却下はせず、自らの力で行えるよう助言等を行いながら、やりがいを感じられるよう図った。
ミーティング(1回/月)を実施。課題解決等の意見交換を行う。	業務の改善点や次月の目標等を一緒に考え発言を促すことで、当事者意識を高め業務に生かせるよう図った。

年間実績

- ・年間利用者数 9080 名 ・年間利用率 100.88 %
- ・1日平均利用者数 29.19 名(営業日 311 日)
- ・登録利用者平均介護度数 2.03(自立、要支援除く)
- ・介護度別比率 事業対象者: 2.8% 要支援: 12.3% 要介護1: 32.2% 要介護2: 29.3%
要介護3: 14.5% 要介護4: 6.1% 要介護5: 2.8%

表(1)

	事業・要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
平成 30 年度	15.1%	38.3%	19.3%	13.4%	10.6%	3.5%
平成 31 年度	9.2%	41.8%	17.7%	10.7%	11.86%	4.7%
令和 2 年度	18.6%	35.4%	19.1%	10.7%	12.4%	3.8%
令和 3 年度	15.9%	34.5%	26.2%	13.9%	6.0%	3.5%
令和 4 年度	14.9%	31.9%	29.6%	14.6%	6.0%	2.8%

表(2)

	年間利用者数	営業日	年間利用率	1日平均利用者数
平成 30 年度	8122	362	90.2	26.2
平成 31 年度	9029	309	100.3	29.2
令和 2 年度	8636	311	95.9	27.7
令和 3 年度	9157	311	101.7	29.4
令和 4 年度	9080	310	100.9	29.3

年間行事報告

4 月	花見・色集めゲーム キャップ返しゲーム	10 月	ハロウィンイベント・地域交流会 しおさいバザー参加
5 月	イチゴ収穫祭・紙コップ射的 手作りおやつ(トライフルケーキ)	11 月	運動会・手作りおやつ(スイートポテト・ パンケーキ・キウイゼリー)
6 月	手作りおやつ(お好み焼き) ジャガイモ収穫祭・丘を越えてゲーム	12 月	クリスマス会・忘年会
7 月	七夕祭り・スイカ割り 手作りおやつ・ひも付きリフティング	1 月	初詣・松花堂弁当・ビンゴ大会 鏡開き(揚げ餅づくり)・書き初め
8 月	夏祭り・かき氷・音楽レク ペーパー芯ピラミッド	2 月	バレンタインイベント・ジャガイモ植え 節分イベント
9 月	敬老イベント・松花堂弁当 バルーン落とし	3 月	ホワイトデーイベント ひな祭りイベント・卒園式お祝い

<毎月行事> 誕生会・作品作り・俳句の会・音楽レク・ビューティーデー・散歩・カラオケ・ふろの日

2.今後の課題

安定した稼働率を維持するため、空き状況の速やかな報告を行い空き状態が短くなるよう取り組み、稼働率を向上させ収益を上げる。

接遇面においても低下をしないよう定期的に投げかけを行い、さらなる向上を目指し利用者満足度に繋がるよう取り組む。

チームワークの強化。人間力のある人材の育成。個々が自信を持って業務に取り組めるよう、役職者のサポートを強化する。役職者は個々の性格や能力を把握し、その人に合った指導方法やスピードで育成を行い、自分で認識し行動を変化させられる人材を育てる努力を行う。一人一人の業務遂行能力を向上させる。また、ワークライフバランスを整え自分自身に余裕を持たせられる環境を作っていく。

訪問介護事業所 介護予防日常生活支援総合事業

目標：利用者様の安心安全な介護の実践

1. 上質なサービスの提供

- ・コミュニケーションを細目にとることでチームワークが良くなり、支援の統一化を図れた。
- ・利用者様の要望に対して、事業所内・関係機関と連携を図り支援を行なった。

2. 経営基盤の強化

- ・事業所から半径15分圏内の利用者様を集客し、移動時間を減らすことで多くの支援に入れるように努めた。
- ・安全運転を心がけて、交通事故ゼロを達した。
- ・有償運転講習に参加し、次年度有償運送のサービスができる準備を行った。

利用実績（令和4年度延べ人数）

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	101	106	108	142	155	124	110	119	111	108	95	122	1401
要介護2	74	75	79	81	73	74	68	73	83	72	72	88	912
要介護3	42	21	15	15	17	17	49	48	38	18	32	26	338
要介護4	43	48	44	41	39	41	87	83	79	58	58	74	695
要介護5	101	148	110	84	70	82	65	71	151	141	60	62	1145
要支援1	17	19	15	13	11	19	19	18	25	23	26	14	219
要支援2	13	14	22	18	14	23	22	15	32	28	37	27	265
総合			2	1	3								6
合計	391	431	395	395	382	380	420	427	519	448	380	413	4981

前年比 延べ 291 名減

登録利用者数 49名（前年比 12名増）

新規獲得利用者数 28名

3. 地域との関わり

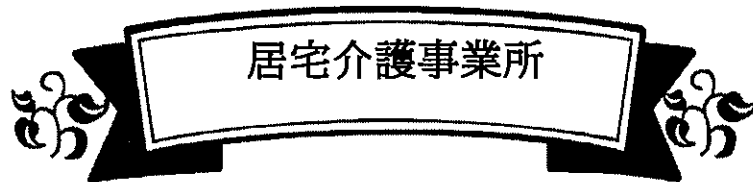
- ・地域・包括・鈴鹿市等と連携しながら、情報共有・発信をした。また、ヘルパー協議会を通じて、鈴鹿市内のヘルパー各事業所との意見交換、すずらん等との情報共有を図った。
- ・ヘルパー事業所からの広報誌の作成はできなかった。

4. 職員満足度向上

- ・インディード・ハローワーク等を活用した採用活動は、採用につながらなかった。
- ・ヘルパー会議の開催（1回/月）年間研修計画をたてて介護技術の質向上に努めた。プチミーティングを計画的に実施してサ責とヘルパーの情報共有や意見交換を行った。
- ・有給休暇の取得推進を図り、年6日以上取得した。
- ・職員間の意見交換を頻回に行うとともにお互いが尊重し合うことで、風通し良い職場環境を整えた。

今後の課題等

- ・職務チェックシートについて、現在ヘルパーが行っている支援の手順や介護内容も含めて修正していく。
- ・職員満足度調査、利用者満足度調査、ケアマネージャー満足度調査を実施することができなかったため、次年度実施する。
- ・職務チェックシートは80%以上の目標値に達することができなかった。



目標：利用者様の安心安全な介護の実践

1. 上質なサービスの提供

- ・コミュニケーションを細目にとることでチームワークが良くなり、支援の統一化を図れた。
- ・利用者様の要望（なりたい姿）に対して、関係機関と連携を図り支援を行なった。

2. 経営基盤の強化

- ・事業所から半径15分圏内の利用者様を集客し、移動時間を減らすことで多くの支援に入れるように努めた。
- ・安全運転を心がけて、交通事故ゼロを達した。
- ・有償運転講習に参加し、次年度有償運送のサービスができる準備を行った。

令和4年度利用実績（延べ人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護	4	5	3										12
家事援助	30	22	30	35	19	18	19	19	18	15	18	16	259
総合計	34	27	33	35	19	18	19	19	18	15	18	16	271

前年比 延べ-488名減

登録者数4名（前年比3名減）

新規獲得利用者 0名

3. 地域との関わり

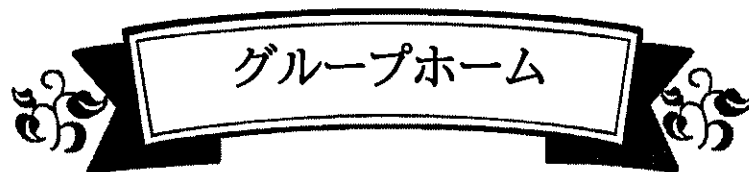
- ・地域・包括・鈴鹿市等と連携しながら、情報共有・発信をした。また、ヘルパー協議会を通じて、鈴鹿市内のヘルパー各事業所との意見交換、すずらん等との情報共有を図った。
- ・ヘルパー事業所からの広報誌の作成はできなかった。

4. 職員満足度向上

- ・インディード・ハローワーク等を活用した採用活動は、採用につながらなかった。
- ・ヘルパー会議の開催（1回/月）年間研修計画をたてて介護技術の質向上に努めた。プチミーティングを計画的に実施してサ責とヘルパーの情報共有や意見交換を行った。
- ・有給休暇の取得推進を図り、年6日以上取得した。
- ・職員間の意見交換を頻回に行うとともにお互いが尊重し合うことで、風通し良い職場環境を整えた。

今後の課題等

- ・職務チェックシートについて、現在ヘルパーが行っている支援の手順や介護内容も含めて修正していく。
- ・重度訪問介護などの資格等、専門的な知識を得るようにしていく必要がある。
- ・職員満足度調査、利用者満足度調査、支援相談員満足度調査を実施することができなかったため、次年度実施する。
- ・職務チェックシートは80%以上の目標値に達することができなかった。



目標： 大きなお家の中で顔馴染みの皆さまと安心であたたかな暮らしをその方の歩みに合わせ支えています

振り返り

天窓の下での生活がぬくもりある日々であるよう生活を見守るだけではなく、そのエピソードを記録報告その先へ繋げていける力を職員皆で取り組めた。

1. 上質なサービスの提供

「法人の理念」「私たちの誓い」から、「想像力」相手の気持ちを推し量る気持ち、「創造力」実践する力を兼ね備えた介護ケアの中で、ホスピタリティについて各々の考えや想いを発表し合ってきた。ホスピタリティを忘れず意識し「相手も自分も心地よい関係作り」から職員に接遇確認シートを用いて自身の行動を確認した。今後も定期的実施していく。

2. 経営基盤の強化

年間稼働率 98.2% 平均要介護度 2.8

コロナ感染対策として、クラスターから多くのことを学んだ。平時からの学習や訓練は必要である。WEB研修、関係資料から情報を得、事業所内で共有していく。

PDCAサイクルにおいては、入所者の日々の想いや変化をモニタリングや会議を通しケアマネジャー、家族に繋げ入所者の安心安全な生活が確保できている。

業務手順の見直しについては、都度見直しができる。

ICTの活用については、タブレットを主とし、特記ファイル申し送りノートには簡潔に記載すると決め、記録に残せることができ、時間を有効に使用できている。

次世代予測型見守りシステム Neos+Care 新システムを令和5年3月2日導入し、転倒事故と介護職員の負担軽減の両立で介護サービスの質の改善が目的である。

3. 地域との関わり

三重県社会福祉協議会主催する外部評価を受審し公表することで、地域からの信頼度向上に努めた。運営推進会議はコロナ禍の影響のため、令和4年5月の開催のみとなった。開催できない時は1/2月定期的に関係者に返信用封筒と意見書を添え送付させていただいた。

コロナ禍を理由にせず、今できる事、楽しみをその方と見つけ日々を過ごしてきた。共用スペースである天窓の下での生活の毎日が活動的であるよう介入しその様子を家族や関係者に写真や電話やライン電話で映像を映しながら日々をお伝えした。

4. 職員満足度向上

隙間時間を活用しミニ面談やミニ個別会議を実施した。チーム力強化に繋がった。

新任者についてはエルダー制を導入した。新任者もエルダーも共に成長していく。

① 稼働状況

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	100	92.1	100	100	90.7	100	100	100	100	100	96.0	100

年間稼働率 98.2%

② 入退去、退居理由

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居(人数)	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	2	0
退居(人数)	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0
退居理由	看取り	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	住替え	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	長期入院	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0

※ 入院の内、1人は入院先で3日後に死去(新型コロナウイルス感染症→脳梗塞)

③ 入居者年齢別・性別・要介護度の状況

(単位：人)

	75歳以下	75～89歳	80～84歳	85～89歳	90歳以上
年齢別	0	1	1	3	2
性別	男性	0	1	1	0
	女性	0	0	0	2

平均年齢 86.6歳
(単位：人)

	要支援1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
介護度別	0	1	2	4	2	0
性別	男性	0	1	1	1	0
	女性	0	0	1	3	0

平均要介護度：2.8

④ 介護事故発生状況

介護事故	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
事故内容	転倒・転落	2	3	1	1	0	2	5	2	2	1	0	3
	誤薬	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

※鈴鹿亀山地区広域連合への報告は1件(転倒による頭部打撲・裂傷)

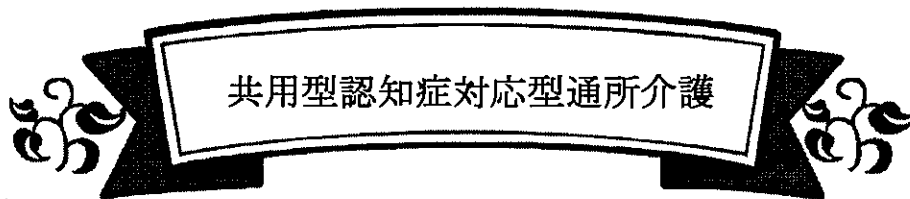
⑤ 自炊・行事食

自炊・手作り食	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
内容	昼食(行事食)	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	2	
	おやつ	2	0	0	2	0	1	3	3	5	1	3	3
	夕食	9	9	7	9	6	6	7	9	9	8	8	9

⑥ 行事開催状況

実施月	行事名	実施月	行事名
4月	花見 茶会 誕生会 歓迎会	10月	ドライブ 歓迎会 サマモ茶巾絞り
5月	花見ドライブ 運動会 うどん作り	11月	防災訓練 誕生会 防災訓練
6月	じゃが芋堀 茶会 パーベキュー	12月	クリスマス会 年忘れ会
7月	誕生会 美容教室 スイカ割り	1月	初詣 誕生会 お茶会 外部評価
8月		2月	節分 お茶会
9月	お茶会 ボーリング大会 誕生会	3月	お茶会 花見

※8月は、新型コロナウイルス感染症の利用者が複数罹患したため、行事は中止した。



目標と振り返り

「家庭的な環境と関わりの中で、利用者様やご家族様の意向をくみ取り、地域や関係機関と連携し、認知症になっても笑顔で在宅生活を継続できるよう介護支援サービスを行う」ことを目標に掲げ、2月から新しいサービス活動に取り組んだ。行政の認可通知が下りたのが1月末であったこともあり、広報活動はやや出遅れてしまった。

居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、当法人の通所介護事業所と連絡を取り合い、利用希望の本人の利用前アセスメントをしっかりと行い、体験利用を通じて家族や他の入居している利用者との関係性に配慮しながら、個々の満足が得られるようサービスを開始した。家族、担当ケアマネージャー、他のサービス事業者、そして近隣住民の協力を得られており、認知症の利用者が安心して日常生活を送られるよう事業を行っていく。

共用型デイサービス

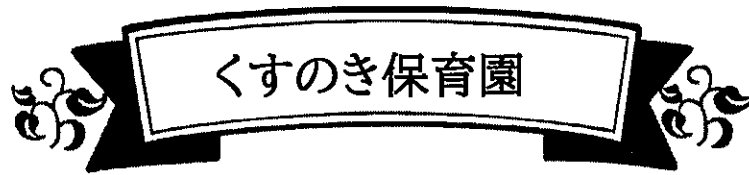
(単位：人)

		75歳以下	75～89歳	2月	2月延べ	3月	3月延べ
年齢別		0	3	/	/	/	/
性別	男性	0	2	0	0	2	11
	女性	0	1	0	0	1	5

- ・2月は体験利用者女性1名：3月から利用に繋がっている。
- ・3月は体験利用者男性1名：その後も利用している。

稼働状況 (単位：%)

	2月	3月
稼働率	0	23.1



【 保育理念 】

子ども一人一人を大切にし、子どもと共に成長し誰からも信頼される保育園作りを目指す。

【 保育方針 】

豊かな表現力を持った子どもに育てる。

【 保育目標 】

- ・ 基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・ 明るく元気な子どもに育てる。
- ・ 情緒豊かな子どもに育てる。

1. 一年の振り返りと今後の課題

運動会、発表会や保育参観など保護者参加型の行事は可能な限り行った。

また、定期的にカメラマンに来てもらい、夏祭りやクリスマス会といった行事や園での日常生活の様子の写真販売（閲覧のみも可）も行い、園での子どもたちの姿を保護者へ積極的に発信した。

園児の罹患者発生により、6/4～6/8まで休園となったが、一部の園児の受け入れは行った。

令和4年度は全園児が集まっての行事は行っていなかったが、来年度はそうした行事も再開し、異年齢での交流を増やしていきたい。

◎ 職員会議

月1回水曜日の18時より開催

情報共有や連絡事項伝達の間となっていたが、職員同士でより実務的な保育内容の研鑽ができる場にしていく。

◎ 避難訓練

毎回、災害の想定を変えて毎月行った。（9月は防災訓練、11月は消防訓練を実施）

不審者対応についての理解が深まっていないため、数を増やすなど検討していく。

警察職員による園児への防犯教室も行う予定。

◎ 特養・デイサービスとの交流

今年度も合同での行事実施は中止、デイサービスへの訪問も中止となった。

地域の老人の方とのふれあいの場として有意義な場だったので、いつか再開できればよいと感じる。

◎ 外部講師による各種指導

- ・剣道指導 … 5歳児のみ。剣道参観（保育参観）を行った。
- ・体育指導 … 3～5歳児対象。年度末には講師と共に3～5歳合同でプチ運動会を開催。
- ・リズム指導 … 4・5歳児対象。園内の簡易楽器を使用してリズム遊びを行った。
- ・リトミック指導 … 2・3歳児対象。体を使って音楽リズムに触れあった。
- ・絵画指導 … 4・5歳児対象。自由に表現できる場として園児も楽しんで参加。
- ・英語指導 … 5歳児のみ。課外教室として希望者は週1回ECC教室に参加。

◎ その他

・臨床心理士巡回訪問

2か月に1回訪問。保護者にも浸透してきて保護者面談を希望される方も増えてきた。行政との連携や職員の保育力向上のアドバイスもいただき、職員の負担軽減にも繋がっている。

・箕田自治体との交流

箕田自治体（水土里会）と今年度も交流を行った。

芋の苗植えから収穫、収穫した芋での焼き芋会と非常にいい機会となっている。

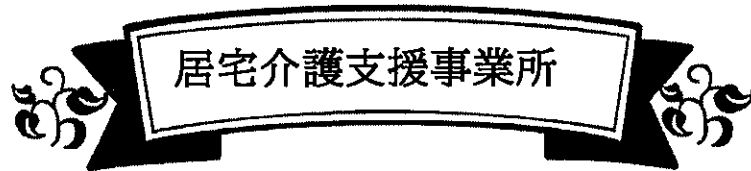
2. 入所児童数の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	5	8	7	9	9	9	9	9	9	9	8	8
1歳	22	24	24	24	24	25	25	25	25	25	25	25
2歳	30	30	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29
3歳	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
4歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24
5歳	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
合計	138	143	142	144	144	145	144	144	144	144	144	144

未満児（0～2歳児）の途中入園希望の問い合わせが多かったが、加配を要する園児への配慮や職員配置、面積基準の都合でお断りせざるを得なかった。

3. 施設整備及び修繕等の実施

- ・電気設備（PAS、LBS、SC、碍子）更新工事
- ・防犯カメラ増設（4台から6台へ）
- ・乳児用テラス設置工事
- ・新遊具設置（ジャングルジム老朽化により撤去）
- ・厨房エアコン交換



目標：職員の幸福の追求～歓待の精神で利用者様の生活を幸福に導く～

今年度、1名の異動及び3名の入職、退職者1名と体制が安定しない中「働きやすい職場」を実現するために、互いに思いやりの気持ちをもって日々の業務に取り組んだ。

また、利用者様のQOLを高めるために適切なケアマネジメントの実践に努めた。

1. 上質なサービスの提供

- ・年間行事計画に沿った研修会の参加や事業所内勉強会（1回/週）他居宅介護支援事業所との合同研修会（4回/年）の参加で専門性を高め質の高いサービスの提供に努めた。
- ・利用者様からの緊急時の相談に対応できるよう24時間連絡体制を確保し迅速に対応することができた。

2. 経営基盤の強化

- ・公正中立で質の高いケアマネジメントの推進、逡減性の緩和、各種加算取得への対応で生産性の向上を図った。事務員の配置によりケアマネジメント業務に専念できるようになった。
- ・コロナ感染での自宅待機期間中にリモートワークを実施することで滞りなく業務を遂行することができた。
- ・LINEワークスの活用で円滑に業務を進捗することができた。
- ・緊急の支援依頼や困難ケースの対応に対し、主任介護支援専門員が中心となり、迅速且つ丁寧な対応ができた。
- ・コロナ感染の影響とケアプラン件数の増加により、認定調査委託業務の目標は達成できなかった。
- ・交通規則を遵守し、交通事故ゼロを継続できた。

【事業実績】

居宅介護報酬請求件数 2, 996 件（前年比 419 件増）

認定調査 108 件（前年比 107 件減）

月	介護報酬	認定調査	月	介護報酬	認定調査
4月	234	8	10月	251	9
5月	239	11	11月	260	10
6月	241	14	12月	261	8
7月	249	12	1月	250	9
8月	254	0	2月	256	13
9月	250	0	3月	251	14
			合計	2,996	108

☆介護報酬件数には介護予防件数も含む

3. 地域との関わり

- ・地域包括支援センターとの連携で困難ケースに対しても迅速な対応を行うことができた。
- ・地域包括支援センター主催の地域ケア会議や意見交換会、在宅医療・介護連携支援センター主催の研修会に参加して医療・保健・福祉とのネットワークの構築に努めた。
- ・主任介護支援専門員が介護支援専門員協会の理事に着任し任務を遂行している。

4. 職員満足度向上

- ・1on1ミーティングの実施で日頃からコミュニケーションを図り、チームワークの強化、メンタルヘルスの実践に努めた。
- ・有給休暇の取得推進を図ったが職員により偏りがある結果となった。

今後の課題

- ・BCP（事業継続計画）を事業所内で周知し、災害や感染症の発生時に備えた体制を整える。
- ・OJTの実践で介護支援専門員の質の向上を目指しチームワークを強化することで各々が働く姿勢を見つめ直し、より良い職場環境になるよう努める。
- ・地域包括支援センターと連携し地域から信頼される事業所を目指す。
- ・外部研修へ積極的に参加し、自己研鑽に努める。

鈴鹿第4地域包括支援センター

1. 上質なサービスの提供

地域包括支援センター開設より2年が経過。当法人の基本理念である「慈しむ心を育む」の実現に向けた考えのもと、「住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らせる尊厳ある生活」のサポートを提供する役割を意識し、目指す基本目標としてきた。ワンストップ窓口として周知、啓発を重ね、地域の方や民生委員からの相談も増えており、新規相談件数は前年度と比べ年間104件増加している。

地域ケア個別会議、地域ケア圏域会議の開催を通じて地域の福祉課題を把握し、社会資源の開発や施策等の充実、ネットワークの構築等今後も関係機関と連携を強化していく。

2. 経営基盤の強化

包括直営件数に関しては昨年比で延べ279件増加している。令和5年度は直営件数延べ1,000件以上を目標にしている。一方で委託予算内の業務運営が難しく今後の課題となっている。

ラインワークスでの情報共有、リモートでの研修・会議の参加等、ICTの活用により業務の生産性の向上に努めている。

事業実績

指定介護予防支援事業

月	委託	直営	月	委託	直営
4月	153	52	10月	158	74
5月	145	54	11月	157	76
6月	155	58	12月	148	73
7月	154	61	1月	157	81
8月	156	60	2月	147	78
9月	154	67	3月	149	83
			合計	1833	817

総合相談支援業務

新規相談件数（継続相談は含まず）	399件／年
------------------	--------

介護予防普及啓発事業

介護予防出前講座等の開催、サロン等への参加	17回／年
-----------------------	-------

権利擁護業務（成年後見、虐待等）

権利擁護	42人／年
虐待への対応	12人／年
消費者被害への対応	1人／件

地域ケア会議関係業務

地域ケア個別会議の開催	4回／年
地域ケア圏域会議の開催	2回／年
自立支援型地域ケア会議への出席	2回／年

各種会議等

担当者会議の開催・出席	105回／年
認知症初期集中支援チーム員会議への出席	12回／年

認知症総合支援事業

地域支援推進員と協力した実践活動	3回／年
------------------	------

在宅医療・介護連携推進事業

在宅医療を行う医療機関との連携	30件／年
-----------------	-------

包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

圏域内ケアマネ支援会議・事例検討会	6回／年
関係機関・地域の協議会等による会議の参加回数	42回／年

3. 地域との関わり

地域包括ケアシステムの実現に向け地域の方へ周知・啓発等を行っているが、「地域包括ケアシステム」については一般住民の方の認知率はまだ低いように思われる。また介護予防事業の認知度も十分とは言えない。

今後も地域の課題解決に向け取り組み、定期的に地域ケア会議を開催していく。また医療機関、行政、福祉従事者との連携を深めるべく専門会議の開催を重ねている。地域ケア会議については令和4年度は年3回開催予定であったが、当法人にて新型コロナウイルス拡大時期と重なり年2回の開催となった。

4. 職員満足度向上

4月に保健師が入職し、包括内オリエンテーションを行った。センター職員全員が協力しOJTを重ねている。また三職種の人員配置に変更があったため、業務内容の見直しを行った。

今後もセンター職員間で相互に情報を共有し、専門的見解等の視点から意見交換を行っていく。また積極的に外部研修に参加し、研修で得た知識をセンター職員間で共有していく。

有給休暇取得率は70%を超えており、取得しやすい環境作りに努めている。また職員間の連携を深めるため、法人が加入している福祉厚生制度を利用し交流の機会を持っている。

研修

センター内での研修	7回／年
センター外での研修	33回／年

今後の課題

- ・令和5年度の地域ケア会議ではテーマの抽出が課題。個別ケア会議を重ねる中で地域の課題を検討していく。
- ・令和4年9月より自立支援型地域ケア会議を開催。今後も定期的に開催し、多職種の横断的視点で対象者の支援について検討していく。
- ・災害や感染症発生時に要援護者、関係機関に対して、必要な情報発信や支援が行える体制が構築できるよう検討していく。

認知症総合支援事業所

目標：認知症の方の意見が尊重され、笑顔で自分らしく暮らし続けることができるよう取り組む

認知症の正しい知識の普及や、チーム活動の周知を行い、相談しやすい環境づくりと、円滑なサービスに繋がる体制づくりの構築を実施した。

1. 上質なサービスの提供

①業務遂行に必要な研修の受講

- ・認知症初期集中支援チーム員研修受講：令和4年7月31日
- ・認知症地域支援推進員研修受講：令和4年8月23日、24日
- ・チームオレンジコーディネーター養成研修受講：令和4年5月24日、8月19日
- ・キャラバン・メイト養成研修受講：令和4年9月16日

②外部研修に参加し、研修で得た知識を事業所職員間で共有した（外部研修参加 8回/年）

- ・第10回認知症疾患医療センター全国研修高知大会：令和5年1月28日（森川）
- ・第13回鈴鹿認知症を考える会：令和5年2月17日（松元）
- ・令和4年度鈴鹿市地域福祉講演会：令和5年3月30日（松元）

③リフレクションシートを活用し、個人目標設定、目標管理を行った

【認知症初期集中支援】

毎月1回チーム員会議を開催し、チーム医や各圏域地域包括支援センター、行政と支援の方向性について検討し、必要な専門医療機関への受診や、介護サービスの利用に円滑に繋がるよう支援を実施した。

チーム員会議 開催	12回
4チーム合同会議	12回
アウトリーチ合同会議	4回
認知症初期集中支援チーム全体会議	2回
認知症初期集中支援チーム検討会議	2回

2. 経営基盤の強化

- ・鈴鹿市からの委託予算に対して事業計画に則って予算内での事業運営を行い、経費削減に努めた。
- ・支援対象者に対して必要な支援が迅速に対応できるように法人内外の事業所と連携を図り、継ぎ目のない支援に繋がるよう努めた。

【活動実績について】

相談者実人数	64
うち支援対象者実人数	46
支援終了者実人数	37
対象者の訪問延べ回数（不在除く）	172

【相談者について】

①相談経路

直接（電話・来所等含む）	38
包括を通じて	26
合計	64

②相談者の内訳

本人	6
家族	43
民生委員	2
近隣住民	2
担当ケアマネ	7
医療機関	0
行政	1
その他	3
合計	64

③相談内容（重複あり）

認知症かどうかを知りたい	25
介護サービスを使いたい・使わせたい	30
病院を受診したい、受診して欲しい	38
認知症の対応方法を知りたい	12
家族内トラブルがある	8
近所トラブルがある	5
車の運転について	13
行方不明・迷子・徘徊について	2
漠然とした不安、将来の不安	45
その他	0

3. 地域との関わり

【認知症初期集中支援】

各チームとチーム員活動の課題について情報共有と検討する会に参加、各関係機関とのネットワーク構築に努めた。

北部圏域事例検討会 開催	1回
西部圏域事例検討会	1回
各圏域地域ケア会議	6回
各圏域個別ケース会議	5回

【認知症地域支援推進事業】

民生委員児童委員協議会定例会に出席し、認知症施策の普及啓発を行った。チームのチラシの配布や、地域支援推進員の役割の周知に努めた。

民生委員児童委員協議会定例会出席	36回
認知症連絡会	2回
認知症地域推進員会議	2回
認知症サポーター養成講座の実施	2回
おれんじルーム	12回
アルツハイマーデーイベント	1回
スローショッピング	6回
認知症ステップアップ講座受講 R5年1/10、1/12	2日間
長太地区まちづくり協議会主催の行方不明者捜索訓練	1回

4. 職員満足度向上

- ・年度当初、チーム員1名の体調不良による人員交代があったが、7月より体制が整いチーム員2名での活動を実施できた。
- ・有給休暇の取得推進を図ることができた。

今後の課題

- ・医療機関、地域包括支援センター、ケアマネジャー、行政等と積極的に連携し、対応困難例の橋渡しが適正に行えるようになる。
- ・ボランティア、民生委員児童委員、自治会、学校、企業等と認知症啓発活動を行い、地域の方々の集いの場を展開していく。
- ・外部研修に積極的に参加し、資質の向上に努め、自己研鑽を継続していく。
- ・法人内他事業所に向けて、認知症啓発活動や認知症に関する研修、イベント等の情報を園内研修やラインワークス等を用いて発信していく。